

赤崎 勇本学特別教授及び天野 浩工学研究科教授が 2014年ノーベル物理学賞を受賞

スウェーデンの王立科学アカデミーは、10月7日（火）、2014年のノーベル物理学賞を赤崎 勇本学特別教授及び天野 浩工学研究科教授ら3名に贈ると発表しました。両氏の受賞理由は、『明るく省エネルギーの白色光源を可能にした高効率の青色発光ダイオードの発明』です。両氏は本学において、当時、20世紀中には実現不可能と考えられていた青色発光ダイオード（LED）の開発に取り組み、1985年にはLED の材料となる無色透明な結晶を作ることに成功、その後、1989年には高輝度青色LED の開発に世界で初めて成功しました。現在では様々な分野において活用されています。

赤崎特別教授は、昭和34年に本学工学部助手になられ、同学部講師を経て昭和39年に同学部助教授に就任、同年、本学において博士学位を取得されました。その後は民間企業に移られ、昭和56年に本学工学部教授、平成4年に本学名誉教授、平成16年12月からは、本学特別教授に就任いただいています。

天野教授は、昭和58年に本学工学部を卒業、昭和63年に本学大学院工学研究科博士課程後期課程単位修得後、同年工学部助手に就任、平成元年に本学において工学博士の学位を取得されました。その後、名城大学に移られ、平成22年から本学工学研究科教授に就任されています。

当日は、午後6時45分頃、インターネット上で受賞決定が発表されると、報道陣が待機していた広報プラザは騒然となりました。発表時、フランスへ出張中であった天野教授の研究室では、学生らが作成した天野教授の等身大パネルを囲み、受賞の喜びを分かちあいました。

午後7時15分からは、現在、赤崎特別教授が終身教授に就任されている名城大学において記者会見が行われ、本学から濱口総長が出席しました。会見の中で赤崎特別教授は本学在籍時の研究について、自分の好きな分野を自由に研究することができたこと、当時から続く本学の自由闊達な学風などについて述べられました。総長からは、赤崎特別教授らの発明が私たちの日常生活に欠かせない技術となっていることなど、今回の授賞に対する祝福のことが述べられました。

その後、午後9時から、本学広報プラザにおいて記者会見が行われ、総長、松尾副総長、松下工学研究科長をはじめ、両氏にゆかりのある澤木宣彦本学名誉教授、竹田美和本学名誉教授が出席しました。会見では記者からの質問に対して、今回の授賞理由における学術的な説明、両氏の間柄、研究のエピソード、人柄などが述べられました。また、2008年ノーベル物理学賞を受賞した素粒子宇宙起源研究機構長の益川敏英本学特別教授もインターネット



青色LEDを手に持つ赤崎特別教授（左）と天野教授



名城大学での記者会見で花束を受け取る赤崎特別教授



広報プラザでの記者会見の様子



赤崎記念研究館での垂れ幕設置の様子



空港で学生から出迎えを受ける天野教授



会見上で総長から花束を受け取る天野教授



合同記者会見の様子



豊田講堂に設置された横断幕

電話により会見に出席し、両氏の受賞に対して祝福のことばを述べました。

受賞発表の翌日、8日（水）の午前には赤崎記念研究館において両氏の受賞を記念した、垂れ幕が設置され、総長をはじめ、役員、教職員、学生など、その場に集まった方々のカウントダウンにより垂れ幕が下ろされました。

また、天野教授が帰国された10月10日（金）には、シンポジオンホールにおいて、記者会見が行われ、本学関係者、報道関係者ら約200名が出席しました。前半は、天野教授、総長、松下研究科長の3名が登壇され、後半は赤崎特別教授、中根名城大学学長同席のもと、合同記者会見となりました。赤崎特別教授がシンポジオンホールに到着すると、受賞後、初めて会われた両氏の間で握手が交わされました。会見の中で、赤崎特別教授からは、天野教授とともに受賞が決まったことへの喜びのことばが述べられ、天野教授からは、今回の受賞に対する喜びと日本での盛り上がりの大きさへの驚きなどが述べられました。